

## 第8回 長野市中心市街地活性化基本計画評価専門委員会 議事録

日時 平成 22 年 8 月 30 日(月)

午後 1 時 30 分から

場所 第 1 庁舎 第 2 委員会室

【出席者】

	氏 名
委員 ( 7 名 )	市川浩一郎委員、金澤玲子委員、越原照夫委員、石川利江委員、渡辺晃司委員、高木直樹委員、樋口敦子委員 (欠席:野崎光生委員)
事務局 ( 5 名 )	高見沢都市整備部長 横山まちづくり推進課長、 松橋中心市街地活性化対策室長、瀧澤係長、長谷川主査、 石坂係長、滝澤技師(まちづくり推進課デザイン担当) 島田補佐、遠山主査(都市計画課)

### 1. 開会

### 2. 都市整備部長あいさつ

### 3. 委員長あいさつ

### 4. 事務局紹介

### 5. 議事

#### (1) 平成 21 年度 事業実績報告について

<資料1> (説明者:事務局)

#### (2) 主な事業の進捗状況について

<資料2> (説明者:事務局)

(委員)

・善光寺周辺地区街なみ環境整備事業は、全額、市で出しているのか？

(事務局)

・2 / 3の補助で、民間で1 / 3の負担になっている(予算の範囲内)。

(委員)

・歩行者用公共案内表示板改修事業の案内板だが、今後のまちの変化に対応できるのか？

(事務局)

・今回、御開帳にあわせて部分修正をし、去年事業としては終了した。国、県からは今後のほうで一括に改修してもらえないか、その他の観光案内板とあわせて一緒にできる方法はないかと提案があった。今後、案内板の管理について担当を明確にしていきたい。

(委員)

・長野食文化創出事業も参加店が12店舗というのは少ない。

・一般の市民に広がっていない。予約しなければいけないとかガイドラインが細かすぎるのではないか。

・予約しなければならぬ位、時間をかけて何かをするというアピールが全然無い。作る側としたら、それが売り物なのに、それが不自由さになってしまっている。そこをアピールしてはどうか。

(事務局)

・ながの御穀膳は商工会議所が主体。

(委員)

・ガイドラインを決定したという事で、一応事業は終了している。が、市でもPRしてもらいたい。商工会議所にも話をする。

## 中央通り歩行者優先道路化事業について

### <資料3> (説明者:都市計画課)

(委員)

・歩道の御影石は雨が降ったときに杖等がすべるといったことはないのか？

(都市計画課)

・石の仕上げによるが、パーナー仕上げという雨が降っても滑らないものになっている。

(委員)

・自転車はどこを走ればよいのか。荷卸の車やタクシーが停まっていたらどうするのか。

・高齢者と児童はポラードから50cmの範囲を走ってくれ、でもそこは自転車だという表示はしない。となると、表示なしでそれをきれいにコントロールするのは難しい。

(都市計画課)

・詳細な部分については警察等、交通管理者と詰めきれていない。これから詰めていくので、この意見を参考にしたい。

(委員)

・自転車のルールをわかっていない人が多いので、この分かりにくい状態だと恐い。しかも傾斜がある。白線ブロックなども利用してなるべくデコボコさせて、車は嫌だという雰囲気にするような事もできる。ハンプ舗装はできないか？

(事務局)

・ハンプ舗装について検討してみたが、周辺の住宅に振動を与えてしまうので、やめようという事になった。ちょっと段差をつけただけでもクレームがくる程、振動がある。

(委員)

・全ての場所がシャッターポイントになる楽しい道路になると思う。イメージはできたが、道路工学的なところで大変なのではないか。

・中央通りに魅力がない。次の御開帳までにはなんとかできて、大勢のお客さんが中央通りを歩いてくれば活性化ができる。歩道を第一に考えて通過車両は通らない、車は必要最小限の車だけが通る。それ以外の通過車両は外を通ってもらった方が早いという考えが前提。最終的には公共交通以外の通行を止めようというものだった。

・最終的には、一店一店の店の魅力であり、まちの文化性向上と切り離しては考えられない。ソフトとして、この道づくりに合うようなまちづくりを、もう一度、新しい切り口で考えていくべきではないか。

・中央通りに関して、東西後町は、看板をとれば、土蔵が出てくる。次に景観条例などをやっているようにしている。

・あまりにもきれいで広くされると、人はどこに行っても良いのかわからなくなってしまう。木々などが無くなって隠れる場所がないと、人は歩けない。整頓されすぎない人間味のあるまちづくりにしてもらいたい。

・ハードについてはいろいろ意見が出てよく議論されるが、ソフトの面で、イベントなどとなると話が止まってしまう。

(事務局)

・意識改革も必要。景観整備、個店の活動等全体でまとめないと集客というところまではいかない。

## 善光寺表参道景観づくり推進事業について

### <資料4> (説明者:まちづくり推進課)

(委員)

・市民団体の認定と協定の締結は何年度を目安としているのか？

(事務局)

・市民団体の認定は本年度末か、来年度当初。そこから5ヵ年度、補助金が出るので、補助金が出ている間に協定に持っていきたい。

(委員)

・地域性があるので地区の特性を活かすのが大事だが全体としての景観形成も必要となってくる。全体的な統一感をどうやって持たせるのか方向性はどうか考えているのか。

(事務局)

・道路上の工作物で統一的なものを盛り込めたらと考えている。

(委員)

・推進事業としては駅前まで入っているが、景観協定を考えているのは、ふれあい通りの部分までだけなのか。

(事務局)

- ・事業としては南北ずっとあるが、まずは、ガイドライン、協定などの実効性のあるものについては大門南の交差点から新田町の交差点まで着手したい。

(委員)

- ・近代的なものと昔の風情を残したものと分けた扱いでいくのか？
- ・長野市の都市観形成をどうしていくのかという基本理念の中で、こう進めていると言われれば納得しやすい。

(事務局)

- ・中央通り歩行者優先道路化事業は新田町から北を第1期区間と位置づけている。いずれにせよ駅から善光寺まで1本軸を通すと考えている。
- ・景観面においては、大門上は地元の方の力で良い雰囲気、大門南方は景観協定を結んだ。新田町交差点南から駅までは近代的な建物が立ち並んで昔の状態に戻す事はとてもできないので近代的な既存の景観作りをしていかななくてはならない。善光寺から駅に向けて時間軸が新しくしていくイメージ。それを表参道の景観形成の大きな方針として位置づけていかななくてはならない。景観作りで行政ができるものは、道路、街路樹くらいまで。後は民地の建物なので地元の皆さんと話しながら方向を定めていきたい。
- ・「駅から善光寺に行く表参道の位置がわからない」と言われるので、駅から中央通りの車道の色とか素材を普通の黒舗装ではないものにしていきたい。視覚的に表参道がわかるデザインにしていきたい。案内板を作るより、視覚的なもので誘導したら良い。

(委員)

- ・中央通りを最後はどうするんだという事を一致して考えていかないといけない。

(事務局)

- ・長野市は交通セル計画を持っていて最終的には中央通りは公共的なバス、タクシー以外いっさい車を通さない計画である。

### (3) 数値目標の最新数値について

< 資料5 > (説明者:事務局)

(委員)

- ・住みたくなるまちの数値だが、0~14才までが増えて15才以上が減っているというのは環境の問題もあるのではないかと。子供が大きくなると郊外へ出て行っていると思われる。環境の問題(公園が少ない等)があるのかもしれない。もちろん家賃の問題もあるだろう。
- ・住みたくなるまちの数値は、短期長期に真剣に取り組んでいかなければいけない。住みたくなるまちがベースになっている。
- ・居住に関してもマンションを増やすだけではいけない。定住人口を増やすだけでなく、減らさないという考え方がないといけない。高齢化してきて、居たいのに、居続けられなくなってしまう人を保護する手立ても必要だと思う。
- ・中心市街地の空き家率というのは調査しているのか。全国的に空き家率は13%をぐらいではないかと言われている。長野市もその辺を敏感に研究して欲しい。
- ・空いているが貸さない人は多い。市場に出てこない空き家はたくさんある。

(事務局)

- ・空き家率ということでは把握していない。が、情報発信するためのいくつかの方法を考えている。宅建協会と協議して、空き家バンクを創設し、HPなどで情報発信していく予定だ。

### (4) その他 他都市のフォローアップ状況

< 資料6 > (説明者:事務局)

(委員)

- ・全体としては、他都市と比べて、この経済状況の中、長野市は良い傾向ではないかと思う。

6. 事務連絡

7. 閉会